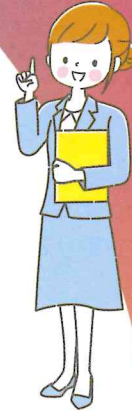


ソーシャルワーカー

とはどんな人？



すべての人を思い・考え・ともに歩いていく

人と社会の役に立ちたいと思う

よりよい社会のために社会の仕組みや制度を変えていく

私たちは、生まれてから死ぬまでの生活において、さまざまな困難に向き合わなければならない時がある。そして個人の努力だけでは乗り越えられない困難もあるかもしれない。そのようなとき、その人に寄り添い、ともに困難を乗り越え、そっと背中を押してあげられるような人になりたい。



ソーシャルワーク (SOCIAL WORK)

社会は私たちソーシャルワーカーを必要としている

ソーシャルワークとは、人々と環境とその相互作用する接点に働きかけ、すべての人々の健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を実現し、**ウェルビーイング** (幸福) の状態を高めることを目指していくことです。

近年、福祉ニーズの変化等に伴い、ソーシャルワーカーの活躍の場は、高齢者支援、障がい者支援、子ども・子育て支援、生活困窮者支援といった分野のみならず、教育や司法などの様々な分野に広がってきています。今まさにソーシャルワーク専門職が行うソーシャルワークに対する期待は大きくなっています。

日本におけるソーシャルワークは、独自の文化や制度に欧米から学んだソーシャルワークを融合させて発展してきました。現在の日本の社会は、高度な科学技術を有し、めざましい経済発展を遂げた一方で、世界に先駆けて少子高齢社会を経験し、個人・家族から政治・経済にいたる多様な課題に向き合っています。また日本に暮らす人々は、伝統的に自然環境との調和を志向してきましたが、多発する自然災害や環境破壊へのさらなる対応が求められています。

「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義の日本における展開」(2017年6月)

ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である。社会正義、人権、集団的責任、および多様性尊重の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす。ソーシャルワークの理論、社会科学、人文学、および地域・民族固有の知を基礎として、ソーシャルワークは、生活課題に取り組みウェルビーイングを高めるよう、人々やさまざまな構造に働きかける。

「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」(2014年7月)

実践者の紹介 ① 医療

曾根病院 患者支援室
吉岡 あゆみ さん



① 仕事内容

診察に来られた患者様・ご家族の悩み事や困りごとの相談支援をしています。私が勤める病院は、高齢の方の入院がほとんどなので、住み慣れた家へ帰りたけれど不安がある方に寄り添い、ご本人らしい生活に繋がられるよう日々取り組んでいます。

② 今の仕事を選んだきっかけ

私が中学生の頃、認知症を患った曾祖母に接したことがきっかけです。当初は「なんでひいばあちゃん、ボケるんやろ？」という『興味』だけでした。また、その当時は支える人の大変さや本人の気持ちの変化など何も知りませんでした。

③ やりがい、大切にしていること

大切にしている言葉があります。『逃げちゃダメだ』。あるアニメで14歳の少年が困難に直面した時に、自分を奮い立たせた時の言葉です。私は常にそんな強い意思を持っていない人間なのでたまに逃げますが、逃げずに向き合うことで一つでも何か得られることがあればいいと思っています。

④ 今後の目標や夢

あの人に相談してみたらいいよ！と言ってくれて、地域の方が病気じゃなくても気軽に立ち寄ってくださるような、そんな医療ソーシャルワーカーを目指しています。

⑤ メッセージ

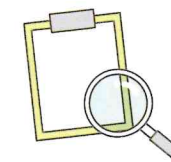
手にとってくださった方、ありがとうございます！将来のこと、進路のこと、たくさん悩まれる時期だと思います。今の段階で色んなことを決めるなんて、難しいですよ…。実は皆さんにも既にできていることがあるかもしれません。身近な人の悩み事に対して一緒に悩み、一緒に解決方法を探すこと、それはこの仕事の役割に似

ているのではないかと思います。これをきっかけにこういう仕事もあるんだと知っていただくと嬉しいです。いつの日か、皆さんと一緒に仕事をできることを楽しみにしています！



吉岡さんの仕事のある1日の流れ

- 8:30 病棟内の申し送り参加・面談予定の確認
- 8:45 担当患者様のところへ朝の挨拶、様子伺い
- 9:15 病棟内カンファレンス
- 10:00 ケアマネージャーさんと退院前カンファレンス
- 10:45 ご家族と面談・介護保険制度の説明
- 11:00 新規入院患者様とご家族様へ挨拶・入院の説明
- 11:30 食事の様子観察・リハビリからの評価聞き取り
- 12:30 休憩
- 13:30 家屋調査・外出同行
- 15:00 帰院 施設相談員さんと状態確認の日程調整など
- 15:20 外来患者様からの相談対応
- 16:00 行政へ問い合わせ・相談
- 16:30 入院患者様と個別面談
- 17:00 アセスメントなど書類作成
- 17:30 業務終了



衛藤病院 福祉課
吉田 涼 さん



① 仕事内容

精神科病院の相談員として、通院している方の相談や入院している患者さんがスムーズに退院できるよう支援しています。また、患者さんやそのご家族の困りごとを聞いて、何か利用できるサービスは無いかなどの相談を受けています。

② 今の仕事を選んだきっかけ

高校時代に障がい者施設の利用者さんを高校の文化祭に招待するというイベントがあり、その時に利用者さんと一緒に過ごしたことが最初に興味を持ったきっかけです。ただ、高校生の頃は社会福祉士や精神保健福祉士という資格については全く知らず、大学も福祉系ではない学部を選びました。大学卒業後、ホテルの予約課で働いていましたが、その時に障がい者施設の利用者さん達がホテルを利用してくれたことがあり、その際の事前打ち合わせで精神保健福祉士である施設の職員さんと出会いました。利用者さんのことを1番に考えながら話をしている姿が印象的で、そのことがきっかけで精神保健福祉士になりたいと思うようになり、退院後、専門学校に入学しました。

③ やりがい、大切にしていること

「話を聞いてくれて楽になった、ありがとう」と言ってもらえた時や、症状が安定しない、家族の協力が得られないなどの問題を抱え退院が難しそうな患者さんに対して、サービスを調整し、他の支援者に協力を得たりして、その方が無事に退院できた時にやりがいを感じます。

大切にしていることは「自分本位の支援にしないこと」です。「当然、この支援が本人にとって必要だろう」と考え、支援を進めてしまうことがあります。先輩から「それって本当に本人が望んでいること?」と言われ、はっとすることがあります。自分の中の「当然」「当たり前」を押し付けず、患者さんの思いをしっかりと聞くことを意識するようにしています。

④ 今後の目標や夢

障がいや介護の制度についてより知識を深め、「吉田に相談しておけば大丈夫!」とってもらえるような人になりたいです。制度や法律が数年おきに変わるので、常に勉強をしておかないといけません。先輩や同僚と支えあいながら学びを深めていきたいと思っています。



⑤ メッセージ

ソーシャルワーカーという仕事はなかなか馴染みが無いと思いますが、患者さんやその家族が安心して治療に向き合うために必要不可欠な仕事です。理想的な支援ができず、壁にぶつかることもこのメッセージを読んで少しでもソーシャルワーカーという仕事に興味をもってもらえたら嬉しいです。

吉田さんの仕事のある1日の流れ

- 8:30 ● 出勤/朝礼・病棟内カンファレンスに参加
- 9:30 ● 電話相談対応
- 10:00 ● 入院、退院の対応
- 11:30 ● 書類作成、電話相談対応
- 12:30 ● 休憩
- 13:30 ● 面談
- 14:30 ● 施設見学同行・院内カンファレンス
- 16:00 ● 委員会出席
- 17:00 ● 終礼
- 17:30 ● 業務終了

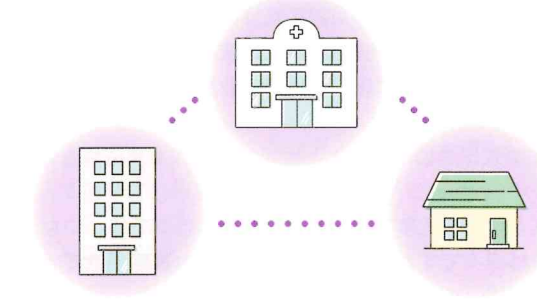


大分保護観察所
社会復帰調整官
永井 祐治 さん



① 仕事内容

社会復帰調整官は、全国の保護観察所に配置され、医療観察制度の対象となった人の社会復帰を促進するため、医療機関や地域の関係機関等と連携しながら、その人の生活状況を見守りつつ、通院や服薬が継続できるよう適切な助言や指導を行ったり、地域において必要な支援を確保するためのコーディネートを行う専門職です。



② 今の仕事を選んだきっかけ

前職は精神保健福祉士として精神科病院で勤務していました。その中で、触法精神障がい者の地域生活の援助に関わる機会があり、非常に困難な支援であると同時にやりがいを強く感じ、社会復帰調整官に応募しました。

③ やりがい、大切にしていること

この制度の対象となった方が様々な援助を受け続けることで他者を信頼することを学び、自分らしい生き方を見付け、社会復帰を果たしていく過程に寄り添っており、社会復帰調整官自身もとても大きな力をもらいます。そうした経験を通じて、私たちは他の対象者に対しても、同じように社会復帰に向けて寄り添い、支えていく前向きな気持ちを持ち続けていくことにやりがいを感じます。

また、精神保健福祉の専門職と行政官という2つの性格を有していることから、対象となった方の背景等を的確に捉えて処遇に反映させ、法に定められた業務を行うために制度を正しく理解することが欠かせない仕事だと感じています。実際の現場では、難しい局面で対応を求められることもあります。常に学び続ける姿勢を大切にしています。

現在、医療医観察法の処遇を通じて地域との連携を深め、チームとして対象となった方の支援を行っており、この取り組みが一般の障害を持つ方たちの支援に活かしてもらえることを目標にしています。いつか、この取り組みが多機関、多職種が有機的なつながりを持って地域の精神保健福祉の底上げとなることを夢見ています。

④ 今後の目標や夢

社会復帰調整官は、精神保健福祉士等の業務に8年以上従事した後に応募することができます。資格取得後すぐに就ける仕事ではありませんが、これまでの経験を活かすことができ、高い志や知識を有する仲間とやりがいを持って業務に臨むことができる魅力的な仕事です。これから資格を取得する方には、地域で様々な経験を積み、いつか社会復帰調整官にチャレンジしてもらいたいと思います。

⑤ メッセージ

社会復帰調整官は、精神保健福祉士等の業務に8年以上従事した後に応募することができます。資格取得後すぐに就ける仕事ではありませんが、これまでの経験を活かすことができ、高い志や知識を有する仲間とやりがいを持って業務に臨むことができる魅力的な仕事です。これから資格を取得する方には、地域で様々な経験を積み、いつか社会復帰調整官にチャレンジしてもらいたいと思います。

永井さんの仕事のある1日の流れ

- 8:30 ● 出勤/1日のスケジュールの確認等
- 9:30 ● ケア会議開催/病院や事業所訪問
- 12:00 ● 昼休憩
- 13:00 ● 対象者宅への訪問等
- 15:00 ● 帰庁/記録作成・電話対応等
- 17:15 ● 退勤



杵築市社会福祉協議会
財前 勢以子 さん



① 仕事内容

杵築市社会福祉協議会で相談員をしています。権利擁護の仕事で、成年後見制度の相談などを受けています。

② 今の仕事を選んだきっかけ

福祉の仕事を選んだきっかけは、同居していた祖父です。祖父を在宅で看取りました。当時の私には何もできませんでした。そのことから、医療介護の仕事を考えていました。本格的に相談員を目指していたわけではなく、大学で資格取得を目指しながら勉強し、仕事をしながら相談員の仕事のやりがいを見つけていった形です。



③ やりがい、大切にしていること

仕事のやりがいは、相談者の方の笑顔です。相談に来る方は、何か課題があり課題を解決したくて相談に見えます。課題と一緒に解決する姿勢で支援をしています。課題を相談者とともに考え解決すると、お互いに笑顔が



こぼれます。

仕事仲間にも恵まれました。へこむこともありますが、仲間とともに切磋琢磨しあいながら、相談者の方の笑顔のために、仕事に取り組んでいます。

④ 今後の目標や夢

社会福祉協議会では色々な仕事があります。子育て世帯の支援、高齢者の支援、生きづらさを抱えた方の支援など様々です。住み慣れた地域で生活ができるように、地域の方と協働していければと思います。



⑤ メッセージ

人と関わる仕事です。人とつながる仕事です。つながり方は様々ですが、誰かの役に立てたと実感がある仕事だと思います。

財前さんの仕事のある1日の流れ

- 8:30 ● 出社・全体朝礼
- 8:40 ● 係のミーティング・お互いの1日のスケジュール把握等
- 9:00 ● ケース会議
- 10:00 ● 訪問
- 12:15 ● 昼食
- 13:00 ● 記録の整理
- 13:30 ● 訪問
- 15:00 ● 相談
- 17:00 ● 業務終了



別府市社会福祉協議会
谷口 祐樹 さん



▲ 別府市成年後見支援センター

① 仕事内容

社会福祉協議会（略称、社協）は、地域の人びとが住み慣れた“まち”で安心して生活することのできる「福祉のまちづくり」の実現をめざして様々な活動を行っています。私が働いている「別府市社会福祉協議会」においても“誰もが安心して共に暮らせる福祉のまちづくり”のために、ボランティアや市民活動の支援、共同募金運動への協力、高齢者や障がいのある方などが抱える困りごとの相談対応等に取り組んでいます。



② 今の仕事を選んだきっかけ

中学生の頃より人の役に立つ仕事がしたいと考えていました。多種多様な福祉の仕事の中で方向性が決まったのは、高校生の時に聞いた出前授業でした。

「病院の相談員（MSW）は患者さんと地域をつなぐ架け橋」といった内容で、「ひと」と「ひと」とをつなぐ“相談に応じる仕事”に興味を持ちました。その後、福祉大学を卒業して「社会福祉士」の資格を取得し社協で仕事をしています。



③ やりがい、大切にしていること

相談された人にとって“相談してよかった”と思ってもらえることを心がけています。また、困りごとを抱えた方がこれまでより少しでも生活しやすくなるよう、環境をコーディネート（調整）できた時にやりがいを感ずります。地域づくりをする時には、できるかぎり地

域へ足を運び地元の方と「顔の見える関係性」をつくっていくことを大切にしています。

④ 今後の目標や夢

私の「夢」は“誰もが安心して共に暮らせる福祉のまちづくり”の実現です。この夢は一人の想いだけでは成りません。想いを共有できる仲間と語り合い（想像）つくりあげていく（創造）ことの積み重ねが大切だと思っています。そのため、次の世代に櫛（たすき）をつなぎながら生涯をかけて取り組んでいきたいと考えています。

⑤ メッセージ

皆さんは「福祉」という言葉にどんなイメージをもっていますか？福祉の仕事は「ふ」だんの「く」らしの「し」あわせをつくる仕事と言われています。特に社協の仕事は、皆さんが住んでいるまちの“未来”を考え、“今”できることを実行していくやりがいのある仕事です。このパンフレットを読んで福祉の仕事に少しでも興味・関心が湧いたのなら、将来の選択肢のひとつとしてソーシャルワーカーの道を考えてみてはいかがでしょうか。

谷口さんの仕事のある1日の流れ

- 8:30 ● 出勤
- 8:30 ● 支援調整・電話対応
- 10:30 ● 訪問支援
- 12:15 ● 昼休憩
- 13:00 ● 事務処理
- 14:00 ● ケース会議
- 16:00 ● 記録作成
- 17:00 ● 退勤



戸次・吉野
地域包括支援センター
佐渡 志保 さん



1 仕事内容

地域包括支援センターに勤めています。
地域包括支援センターは地域で暮らす高齢者が、いつまでも住み慣れた地域で安心して生活できるように「介護」「福祉」「保健」「医療」など総合的な地域の相談窓口です。包括支援センターは社会福祉士が必置されており、その専門性を活かせる職場です。日々の業務では事務所での来所相談の他に、高齢者宅を訪問して相談を受けたり、講演会やイベントの企画、地域の公民館で介護予防教室の開催や認知症の方の支援、高齢者虐待対応の窓口など様々な仕事をしています。



2 今の仕事を選んだきっかけ

私がソーシャルワーカーの仕事を選んだのは高校生の時にお世話になった方の影響です。
高校生の時は、家族や友人のこと、将来のことなど悩み事が沢山ありました。そんな私の話を聞いてくれて、支えになってくれたのは第三者の方でした。第三者の立場だからこそ困っている人に対して支援すること、支えになることができるのだと言うことを知り、私もそのような人になりたい、困っている人を助けられる人になりたいと思い、この仕事を選びました。

3 やりがい、大切にしていること

毎日、沢山の方とお話をします。その中で「元気もらったわ」「佐渡さんのおかげで助かったわ」等のお言葉を頂けるととても嬉しいです。
また、地域づくりで地域の方と一緒にイベントや、研修会を企画して様々な方と関わることで新たな人と出会うことや、様々な考え方をすることは自分自身の成長につながり、とても大切なことだと考えています。

4 今後の目標や夢

どんなことも安心して相談し、任せられるようなソーシャルワーカーになりたいと思っています。そのためにも、高齢者分野だけでなく、児童のこころ障がい者のこと様々なことを勉強したいと思っています。

5 メッセージ

私も学生の頃は自分が将来何になりたいのか、どんな仕事に向いているのかわからず悩む時期もありました。ソーシャルワーカーは福祉だけでなく医療・教育など多岐にわたる仕事です。様々な相談者の生活に関わることで自分自身の成長にもつながり、様々な可能性を感じる仕事です！是非、ソーシャルワーカーとして一緒に働きましょう！

佐渡さんの仕事のある1日の流れ

- 8:30 ● 出勤
- 8:40 ● 朝礼
- 9:00 ● 自宅訪問、担当高齢者様宅
※1人暮らしの方。昨日から体調悪いと連絡頂き、様子伺いに訪問。
- 10:00 ● 介護予防教室参加予定の高齢者宅、作業療法士と同行訪問
※日々の生活の困りごとなどを聞くことで介護予防教室に参加して、どのように元気になりたいか等目標を一緒に考えます。
- 11:00 ● 事務作業（訪問記録作成）、電話相談対応
- 12:00 ● 昼休憩
- 13:00 ● 事務作業（利用者様計画書作成）
- 14:00 ● 会議出席
※地域連携検討会打ち合わせ
医療と介護の連携を図るための研修会企画
- 15:00 ● 電話で利用者様の様子伺い、サービス調整
- 16:00 ● 自宅訪問、担当高齢者様宅
- 17:30 ● 退社



別府リハビリテーションセンター
障害者支援施設にじ
福山 聖子 さん



1 仕事内容

私が勤務するのは障がい者支援施設です。病気や事故で身体の障がいや、記憶力・集中力といった脳機能に障がいが残った方が入所され、リハビリをされています。私はそこで相談員として、利用者やご家族の相談にのったり、スタッフとともに利用者の心理的サポートをしたり、福祉サービスの調整や関係機関と連携を図って社会参加するための支援をしています。

2 今の仕事を選んだきっかけ

学生の頃より、人の話を聞くことが好きでした。「話せてすっきりした」と笑顔でそう言ってもらえるのが嬉しかったことを思い出します。母親が福祉関係の仕事をしていたこともあり、対話を通して支援をする社会福祉士の仕事に興味を持ち、目指すようになりました。

3 やりがい、大切にしていること

私の勤務する施設では、利用者の多くが生まれながらではなく、中途障がいの方です。私が初めてごあいさつする時にはすでに障がいが残っていますが、今まで何が好きだったのか、何を大事にされてきたのか、どのような人生を歩まれてきたのかを大切にしたいと思っています。そのために、今までのことをご本人やご家族におうかがいしたり、施設での様子を見たり聞いたりしながら、よりご本人を知って支援することを心がけています。



4 今後の目標や夢

今年で16年目になりますが、相談員だけでは支援はできないとの思いが年々強くなっています。ご本人を中心として、ご家族の力、スタッフの力、連携している関係機関の力など多くの力があってこそ支援が成り立っています。もっともっと味方を増やして、利用者の“その方らしい”生活のお手伝いができることが目標です。

5 メッセージ

先日、施設を退所された方のご家族に街でお会いすることがありました。入所中の思い出話をしたのち、ご家族から「本当にいい仕事ですね」と言っていただきました。あまり意識したことがなかったので、その言葉に少しのとまどいと大きな感謝の気持ちでいっぱいになりました。どの仕事も誰かの役にたち、社会が回っていると思いますが、相談員は利用者やご家族の嬉しい『声』を直接、聞くことができるやりがいのある仕事です。



福山さんの仕事のある1日の流れ

- 8:20 ● 朝礼
- 8:40 ● ラジオ体操・朝礼
- 8:50 ● メールチェック
- 9:00 ● ハローワーク同行（求職手続き支援）
- 11:00 ● 面談
- 12:20 ● 昼休憩
- 13:20 ● デスクワーク（個別支援計画書作成など）
- 15:00 ● サービス担当者会議の参加
- 16:15 ● 個別支援会議
- 17:00 ● 終礼（スタッフと情報共有）
- 17:20 ● 業務終了



社会福祉法人清浄園
児童養護施設清浄園
古屋 康博 さん



1 仕事内容

児童養護施設では、家庭で暮らせなくなった子どもたちの自立へのお手伝いをしています。

児童家庭支援センターでは、支援が必要なご家庭の子どもたちと保護者に関わっています。

詳しくはこちらをご覧ください



2 今の仕事を選んだきっかけ

もう25年前の話ですが、ただ単純に「子どもが好きで、子どもと過ごすのが楽しそうだったから」ですね。その判断は間違っていなかったですね、楽しい仕事です！

3 やりがい、大切にしていること

仕事のやりがい：子どもの成長を見られること、子どもが成人した後でも繋がりが続くこと

大切にしていること：仕事（子どもとの生活や行動）を楽しむこと

4 今後の目標や夢

目標：関わっている子どもたちが「将来の夢」を持てるようになること

私の夢：「居場所」の子どもたちをディズニーランドに連れていくこと

5 メッセージ

1. 子どもの「Happy」をお手伝いする仕事です！
2. 子どもができなかったことができるようになっていく（不可能が可能になる）プロセスを伴走できます！
3. 長いスパンで子どもに関わることができて、子どもの成長を見届けられます！
4. そのうえ、「社会に貢献できる」とっても素敵なお仕事です！

児童養護施設職員の仕事の1日の流れ

- 6:50 ● 出勤。子どもたちを起こす
- 7:00 ● 子どもたちと朝食
- 7:50 ● 登校する小学生を見送る
- 8:20 ● 職員朝礼／連絡・引き継ぎ
- 8:50 ● 一時退勤
- 14:30 ● 再出勤／連絡・引き継ぎ
- 15:30 ● 小学生下校。宿題を一緒に行う
- 17:30 ● 子どもたちと夕食
- 18:30 ● 入浴、自由（子どもたちとテレビを見たりして過ごす）
- 20:30 ● 幼児就寝（添い寝・読み聞かせ）
- 21:00 ● 終業（交代で宿直もあります）



児童家庭支援センター職員の仕事の1日の流れ

- 12:30 ● 出勤。掃除／片付け
- 13:00 ● ミーティング
- 13:30 ● 夕食買い物・夕食準備
- 14:30 ● 各小学校へ迎えに行く
- 15:00 ● 居場所へ到着・宿題を教える
- 15:30 ● おやつ・外遊び
- 17:30 ● 子どもたちと夕食
- 18:00 ● 入浴、自由（子どもたちとテレビを見たりして過ごす）
- 19:30 ● ご家庭への送り
- 20:30 ● 掃除・片付け、ミーティング
- 21:00 ● 終業（交代で宿直もあります）



『ソーシャルワーカー』という仕事が気になったあなたへ 20の質問に答えて自己分析をしてみましょう!!

番号	質問	該当するものにチェック
①	人と話をするのが好きだ	
②	気配りができるほうだ	
③	問題解決のためにアイデアを出すのが得意だ	
④	粘り強くコツコツと頑張れるほうだ	
⑤	自分の考えを理論的に説明できるほうだ	
⑥	初対面の人でもうまく話せる	
⑦	イメージやアイデアを形にすることが好きだ	
⑧	人に喜ばれることをするのが好きだ	
⑨	自主性があるほうだ	
⑩	相手に合わせて柔軟な対応ができるほうだ	
⑪	自分の知識や経験を人に伝えたい	
⑫	些細なことでもいい加減にしたくない	
⑬	細かい作業が得意だ	
⑭	人々が快適に暮らせる社会づくりに携わりたい	
⑮	積極性があるほうだ	
⑯	他人の幸せを自分のことのように喜べる	
⑰	社会で起こっている様々な問題に関心がある	
⑱	困っている人がいたら放っておけない	
⑳	忍耐力があるほうだ	
⑳	他人の気持ちを汲み取る、考えることができる	



A

10個以内チェックをつけたあなたへ

ソーシャルワーカーに興味がありそうですね。友人や家族、あなたの周りにいる人とたくさん話をして、周りの人がどのような考えを持っているか知る機会を作りましょう。

B

11個～15個チェックをつけたあなたへ

ソーシャルワーカーへの意欲がありそうですね。友人や家族だけでなく高齢者や障害者、児童等、地域に暮らす人々が困っていることを知り、自分に何ができるか考え、行動してみましょう。

C

15個以上チェックをつけたあなたへ

ソーシャルワーカーへの情熱が伝わってきますね。社会にあるいくつかの問題を知り、何が問題なのか、その問題に対して自分に何ができるか考え、行動してみましょう。

ソーシャルワークとはみんなが**幸せ**に
楽しく生きる ことができるように**社会**に向き合い、
困難な状況にある**人**に寄り添う仕事です。

発行

大分県社会福祉士会

〒870-0907 大分県大分市大津町 2丁目 1番 41号
大分県総合社会福祉会館 2F
TEL : 097-576-7071 FAX : 097-576-7071

公式HP



大分県医療ソーシャルワーカー協会

〒879-2401 大分県津久見市千怒 6011番地
(津久見市医師会立津久見中央病院内)
TEL : 0972-82-1123 FAX : 0972-82-8411

公式HP



大分県精神保健福祉士協会

〒870-1111 大分市上判田 3433番地
(衛藤病院内)
TEL : 097-597-0093 FAX : 097-597-6231

公式HP

